

祐翁。虎之助従焉。既到。嚴君與岳林寺僧某。石松里正在堂。遊息畢。歸路過佐寺村。詣文殊堂。觀雜劇三回。日暮歸家。

・文政三年（一八二〇）

七月九日 府君有命。令諸子婦。以嚴君疾。往祈石松村觀音。予詣府。奉命。與妻及久兵衛妻伸平。謙吉等。皆往。合門生益多。研介。一九郎。寛。玄通。婢僕。殆二十人。

・天保九年（一八三八）

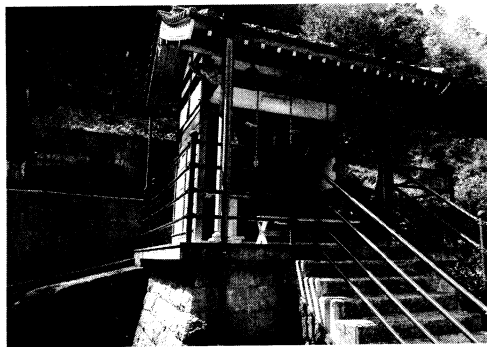
十二月九日 使阿皆往謁石松觀音祠。納先考位牌焉。且訪文五郎。不遇而歸。天保十年（一八三九）

三月九日 詣石松觀音祠。久兵衛。伸平。合谷左膳同行。予家人皆往。伸平妻。姪本。勇。婢皆。雇僕。凡十三人。發行厨焉遊憩。近暮而歸。

などとあることである。なお、この觀音堂は現在台地のふもとの市道脇に遷されていて「蕪（かぶら）觀音」として祀られている。

二 日田盆地東部 城内・田島地区とその周辺

日田盆地の東部には城内地区から田島を経て南部の刃連地区に至る丘陵群が展開する。これらの丘陵からは盆地内の低地に向けて、幾筋かの小



蕪觀音



石松觀音堂跡

な湧水谷が流れ出している。ここには北から慈眼山永興寺、大原八幡宮、そして会所宮神社など、古くから日田の人々に尊崇され、親しまれた神社・仏閣や旧跡が数多くある。当然のことながら淡窓・咸宜園にも格別ゆかり深いところであった。

慈眼山・永興寺（図1・17、18）

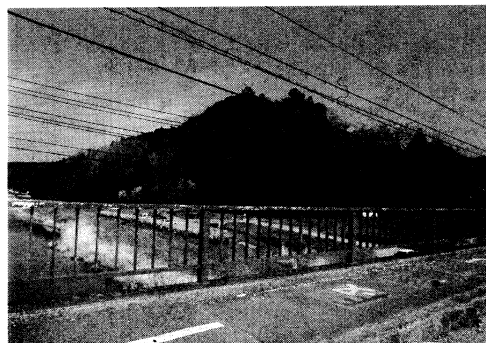
慈眼山は、花月川の左岸に突出した丘陵であり、早くから大蔵氏の居城となっていたところである。近年の発掘調査等により、その様相が明らかになりつつある。

ここに所在する永興寺は開基は新羅の僧智元、延久年間（一〇六九〜七二）に、日田郡大領大蔵永季が父永興を弔うために建立したと伝えられている。

ここには国重要文化財に指定されている一群の仏像がある。このうち木造十一面觀音立像は永興寺の本尊とされるもので、鎌倉期の作である。『懷旧樓筆記』や『日記』では、慈眼山について「城内觀音閣」と呼んでいるのも、この觀音像によるものである。このほか木造四天王立像（持国天・増長天・広目天・多聞天）、二体の木造毘沙門天立像がある。このうち前者は元享元年（一三三二）から翌二年にかけて、奈良興福寺の三人の仏師によって作られたものである。また毘沙門天立像のうちの一体には「文治三年歲次丁未 五月二十八日己巳 大蔵永秀 生年三十五」の胎内銘がある。



慈眼山永興寺



慈眼山